

中学教員4人に1人が過労死ラインを越えた！

群馬県教育委員会の調査結果公表

県教委は今年5月に県内の小中高特別支援学校計32校に勤務する教員829人に対して勤務状況調査を行った。勤務年数、多忙感、充実感を得られる業務などの他に、平日の時間外や土日の業務の実態も調査した。

7月1日の上毛新聞によると、平日、4～5時間、5時間以上の時間外業務をしている教員が小学校で13.9%、中学校で27%、高校で17%となった。ひと月4週20日勤務するとしてこれらの教員の一か月間の時間外勤務の合計は80～100時間になり、過労死ラインと呼ばれる80時間を越えている。通常、午後5時には帰宅につくとして、中学校の先生の4人に1人以上が9時10時まで学校で仕事をしていることになるのだ。



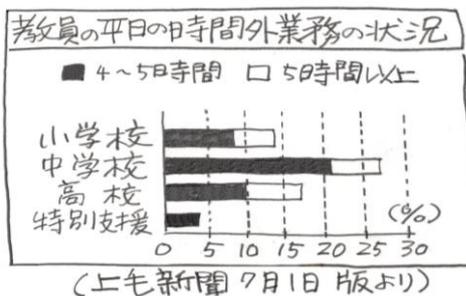
教員の多忙化についてはこれまでもたびたび議論され、文部科学省も対策の必要性を認識している。多忙化の要因には会議、研修、報告など子どもの指導以外の仕事が多いことが指摘されてきた。一方でさまざまな教育的ニーズをもつ子どもに対応するために教員は個別の対応を迫られ、教材研究、部活指導にも多くの時間を割くことが求められる。ではどうする？

多忙化解消に向けた協議会

教職員の多忙化解消に向けた協議会は、昨年末の県と8市町村教委の話し合いから生まれたもので6月30日に第1回開催された。各教育委員会の他に▲各校長会▲各PTA連合会▲中・高体連—などの担当者35人で構成され、笠原寛教育長は「教員の多忙化は、教育界全体が本腰を入れて改良を進めなければならない課題」と語った。

おぼえていますか？土日の1日は休む

県内中学校の部活指導について中学校長会と中体連の間で2度の申し合わせが通知され、2002年の▽土日のうちの1日は原則休み▽休日は午前・午後のいずれかのみ▽平日も1日は休むのが望ましい…から2016年の▽休日は半日程度が望ましい▽1週間に1日程度は休む(土日等)…と後退した経緯がある。育ちと学び28号では子どもたちのために部活指導に打ち込みたい思いと子育てのための休暇がほしいという教員の悩みが語られた。部活指導についてだけでも課題は大きい。打ち出される対策の実効性が問われている。



ある女性教員の一日

毎日新聞は6月末から群馬版に「学校の今」と題する学校現場レポート記事を連載したがその中である女性教員の一日を克明に報じている。『5時間の授業を終えた放課後、提出物の確認、課題の添削、教材作成と続く。このあとトラブルがなくても学校を出るのは午後8～9時。帰宅後も通知表の自由記述欄に書くことを考えたり、教材研究をしたりして就寝は午前1時頃。しかし生徒への対応や翌日の仕事のことで頭がいっぱいで熟睡できないまま翌日が始まる。』